

子どもの笑顔が輝くまちへ 地域で子どもを育てよう



子どものあそび場商店街「忍者修行道場」より

十和田市男女共同参画市民情報誌ゆっパル編集委員によるコーナーです

「ゆっパル」の由来
この地方の方言で「結ぶ」という意味の「ゆっばる」と、英語で「仲間・友だち」という意味の「パル」からできています。「一人ひとりの思いが結びついて仲間をつくる」という願いが込められています。

今号は、地域で子どもを育てる「特十和田NPO子どもセンター・ハピたの」の取り組みについて、中沢代表にお話を伺いました。

Interview

特十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢洋子

所在地 稲生町16-43
 設立 平成17年6月 (特十和田NPO子どもセンター・ハピたの)
 平成18年4月 北園小学校学童保育指定管理者
 平成22年7月 コミュニティカフェ「ハピたのかふえ」開設



事業
 ・子育て支援事業(学童保育)
 ・コミュニティカフェ事業(「ハピたのかふえ」運営)
 ・ネットワーク事業(おはなしはらぺこ隊、わくわく連隊あそびんジャーなど)
 ・あそび環境事業(子どものあそび場商店街、あおぞら児童館ハピたのくらぶ)

スタッフ 代表理事 中沢洋子さん(左下写真中央)
 副代表 藤谷みのりさん(同右)
 専任理事 中野渡典子さん(同左)



▲大宮エリーさんと子どもたちの作品の前で



▲1階がカフェ、2階が事務所です

Q 法人立ち上げの経緯についてお聞かせください。

「ハピたの」の前身「十和田おやこ劇場」は、親子で生の舞台や人形劇などの観賞やキャンプなどを体験し、地域で子どもを育てようという任意団体でした。そこは、お母さんたちが相談したり愚痴を話したりするコミュニティの場でした。その中で活動をしているうちに、自分の子どもばかりではなく、地域の子どもをちゃんと育てたいと考えるようになりしました。

Q 子どもたちと向き合うときに大事にしていることは何ですか？
 「待つ」「子どもの話をとことん聞く」「子どもの気持ちを受け止める」

Q 輝いて働く女性・中沢さんにとって「ハピたの」とは？
 生きるということを一生懸命にさせてくれるところです。さまざまな出会いを通して感動をいただいています。

「ハピたの」は、地域の人が気軽に集い、子どもたちが帰って来られる変わらない場所であり続けたいと思っています。「ハピたの」はみんなのものなんです。

ホットな一句
 温かい
 居場所ので心
 和む 幸
 奈生美



「さんかく日和」その8

Akemi.N



ドクターの吉村純彦先生や畑中光昭先生の「短命県返上・健診率アップのために地域の人と話したい」という思いからでした。

「高血圧」や「認知症」などドクターをドクターが決め専門的な医療の話をし、野菜ソムリエや中央病院の管理栄養士がテーマにあったレシピを考えて、私たちがその軽食を出します。参加料は500円。みんなで食べておしゃべりしながら楽しい時間を過ごします。今では、ケアマネージャーや介護福祉士などつながりが広がっています。これまでの30回の軽食レシピが今年7月に、「食べる処方箋」という本になりました。



▲540円(税込み)

Q 続けていてうれしいことは？
 たくさんの地域の人の出会いやつながりがこんなに広がるのを感じます。これは私たちの一番の財産です。学童保育の子が成長してカフェに遊びに来てくれること、「お医者さんと話そう」では出会いを楽しみにたくさんの方が来てくれること、カフェでは農家さんが応援してくれることなどがうれしいです。

Q 「ハピたの」の願いとは？
 「力は己の中にあり」子どもたち一人一人には必ず力があります。子どもたちが自分らしさを発揮して、輝く笑顔で未来に向かい、夢や希望を持ち、ふるさとに誇りを持って生き抜いていけるように願っています。

★編集後記
 ゼロからの柱づくりに苦心を乗り越え、「ハピたの」を今まで継続しているのは素晴らしいです。私にはできないなあ〜。(K)
 思春期の子どもに冷たくされると寂しい気持ちに…。でも、めげずに笑顔になりそうなご飯を作る毎日です。(N)
 自分が子育てしていた頃を思い出した。子どもたちを守っていたのか。70歳を前にして反省、後悔!(F)

編集 十和田市男女共同参画市民情報誌ゆっパル編集委員 木村奈生美、中野渡明美、深谷淳子
 イラスト 中野渡明美
 発行 総務課広報男女参画係 ☎6702